

平成26年度三重県公営企業会計（企業庁）

決算審査意見書概要説明

三重県監査委員

# 平成 26 年度三重県公営企業会計（企業庁） 決算審査意見書概要説明

## 第 1 審査の概要

審査の対象は、平成 26 年度の三重県水道事業、工業用水道事業及び電気事業の 3 事業会計です。

決算の審査は、知事から提出された決算書類の内容について

- ① 決算の計数は正確であるか
- ② 決算諸表は、経営成績及び財政状態を適正に表示しているか
- ③ 予算は、議決の趣旨に沿って合理的かつ効率的に執行されているか
- ④ 事業経営は、常に経済性の発揮及び公共の福祉を増進するよう運営されているか
- ⑤ 借入資本金の負債計上、みなし償却制度の廃止及び引当金の計上義務化など、地方公営企業会計基準（以下「会計基準」という。）の改正に対応した会計処理が適正に行われているか

などを重点に、各会計諸帳票、証拠書類との照合精査を行うとともに、必要な資料の提出を求め、関係当局の説明を聴取し、併せて定期監査、例月出納検査等の結果を参考に、慎重に審査を行いました。

なお、本意見書に記載する平成 26 年度の計数は、会計基準の改正に対応した数値であり、25 年度以前は旧会計基準に対応した数値です。

## 第2 審査の結果及び意見

### 1 審査の結果

三重県企業庁が経営している水道、工業用水道、電気の3事業の決算諸表は、地方公営企業法及び関係法令に則り、企業庁会計規程に基づいて作成されており、その計数は正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められます。

また、事業の経営については、以下の意見のとおり留意又は改善を要するものを除き、概ね適正に処理されているものと認められます。

(以下、この概要説明においては、金額は万円未満を切り捨てています。)

### 2 審査の意見

#### (1) RDF焼却・発電事業の健全な経営について

水力発電事業譲渡後のRDF焼却・発電事業については、平成28年度までは企業庁が任意適用事業として運営し、29年度から32年度までは県（知事部局又は企業庁）が事業主体となることとされています。

RDF焼却・発電事業は、平成14年度の事業開始から23年度までは赤字が続いていましたが、24年度以降、固定価格買取制度の適用や競争入札により売電収入が増加し、ようやく黒字となっています。

しかし、平成29年度以降は、RDF焼却・発電施設の維持管理費が大幅に増加することから、健全な経営が行えるよう、引き続き関係部局とその経営手法について検討を進めていただきたい。

#### (2) 工業用水道事業の需要拡大について

北伊勢工業用水道事業は、平成27年3月31日現在、契約率は87.3%と高水準であるものの、受水企業の撤退等に伴い契約水量は減少傾向にあり、未契約水量は105,180 m<sup>3</sup>/日となっています。

中伊勢工業用水道事業は、平成 26 年度に契約水量の増減はなく、27 年 3 月 31 日現在、契約率は 54.0%であり、未契約水量は 15,190 m<sup>3</sup>/日となっています。

多度工業用水道事業は、給水先工場の操業廃止に伴い平成 26 年 10 月から休止の状態となっています。

新規企業立地の停滞や節水型企業の増加など厳しい状況にあります。関係部局等と連携し、工業用水の需要の拡大に引き続き努めていただきます。

契約水量等の状況 (平成27年3月31日現在・単位：m<sup>3</sup>/日)

事業名	給水能力 (A)	契約水量 (B)	契約率 (B)/(A)	未契約水量 (A) - (B)
北伊勢工業用水道事業	830,000	724,820	87.3%	105,180
中伊勢工業用水道事業	33,000	17,810	54.0%	15,190
松阪工業用水道事業	38,500	38,500	100.0%	0
多度工業用水道事業	10,000	0	0.0%	10,000
計	911,500	781,130	85.7%	130,370

### (3) 計画的な施設改良の推進について

取水施設、浄水場等の主要施設や応急復旧に時間を要する水管橋については、大規模地震等により被災した場合、県民の暮らしや企業活動等に重大な影響を及ぼすことから、これまで優先的に耐震化を進めてきたところです。

今後は、老朽劣化した管路の更新に加え、大規模地震等により液状化が想定されている地域に埋設されている管路の耐震化についても、計画的に実施していただきたい。

(主要施設、水管橋の耐震化の状況の一覧表は4頁に掲載)

主要施設、水管橋の耐震化の状況

		平成26年度末 (現状値)	平成27年度 (目標値)	平成28年度 (目標値)
水道 供給 事業	浄水場等における主要施設 (129施設)	129施設	129施設	129施設
	水管橋 (170橋)	167橋	168橋	168橋
工業 水道用 事業	浄水場等における主要施設 (64施設)	56施設	61施設	62施設
	水管橋 (74橋)	67橋	70橋	70橋

(三重県企業庁第3次中期経営計画より作成)

### 第3 経営の概要

#### 1 経営収支の状況

平成26年度の経営収支を事業別にみますと、水道事業が22億4,458万円、工業用水道事業が5億2,935万円の純利益となっているのに対し、電気事業は2億1,335万円の純損失となっています。

前年度と比較しますと、水道事業で8億1,587万円純利益が増加し、工業用水道事業では1億7,387万円純利益が減少しています。

水道事業では、給水量はほぼ横ばいで推移していますが、会計基準の改正に伴う退職給付引当金の取崩しにあたり、5億7,000万円の特別利益を計上したことなどにより、純利益が増加しています。

工業用水道事業では、工業用水の年間供給量はやや減少傾向にあるほか、会計基準の改正に伴う賞与引当金や退職給付引当金合わせて8,000万円の特別損失を計上したことなどにより、純利益が減少しています。

電気事業では、附帯事業であるRDF焼却・発電事業においては、再生可能エネルギーの固定価格買取制度適用による平均売電単価の上昇、松阪市の三重県RDF運営協議会脱退に伴う負担金などにより4億8,525万円の黒字となりましたが、水力発電事業においては、会計基準の改正に伴う退職給付引当金の計上等により、6億9,861万円の赤字となったため、前年度に比べ4億4,642万円収支が悪化しています。

各事業の経営収支の合計は、純利益25億6,058万円で、前年度の純利益23億6,501万円に比べ1億9,557万円利益が増加しています。

(純損益の推移のグラフ、経営収支の状況の一覧表は9頁に掲載)

## 2 建設改良の状況

平成26年度の建設改良費は、51億9,494万円で、前年度に比べて、2億2,450万円、4.5%増加しています。

(建設改良費の推移のグラフは10頁に掲載)

## 3 長期債務の状況

平成26年度末の長期債務の現在高は、企業債が461億4,000万円、水資源機構割賦負担金が0円(26年9月末に償還終了)となっており、前年度末に比べて、企業債は56億7,161万円、10.9%減少し、水資源機構割賦負担金は10億508万円、皆減となっています。

(企業債残高及び水資源機構割賦負担金残高の推移のグラフは10、11頁に掲載)

## 4 一般会計繰入金の状況

平成26年度の一般会計からの繰入金は、24億2,030万円で、前年度に比べて、7,768万円、3.1%減少しています。

(一般会計繰入金の推移のグラフは11頁に掲載)

## 第4 事業会計別の状況

### 1 三重県水道事業

#### (1) 事業の概況

平成26年度の給水実績は72,889,554m<sup>3</sup>で、前年度の76,455,341m<sup>3</sup>から3,565,787m<sup>3</sup>減少し、前年度比95.3%となっています。

建設改良費は19億1,197万円で、前年度に比べて872万円、0.5%増加しています。

#### (2) 経営収支の状況

平成26年度の経営収支は、総収益が109億497万円、総費用が86億6,038万円で、22億4,458万円の純利益となっています。前年度に比べて8億1,587万円、57.1%純利益が増加しています。

水系別の経営収支は、北中勢水道用水供給事業（北勢系）の木曾川用水系・三重用水系・長良川水系、北中勢水道用水供給事業（中勢系）及び南勢志摩水道用水供給事業のいずれにおいても黒字となっています。

（総収益と総費用の推移のグラフ、主な経営成績の一覧表は12頁に掲載）

### 2 三重県工業用水道事業

#### (1) 事業の概況

平成26年度の有収水量は205,288,752m<sup>3</sup>で、前年度の211,838,929m<sup>3</sup>から6,550,177m<sup>3</sup>減少し、前年度比96.9%となっています。

建設改良費は31億3,825万円で、前年度に比べて4億4,785万円、16.6%増加しています。

#### (2) 経営収支の状況

平成26年度の経営収支は、総収益が134億1,272万円、総費用が128億8,336万円で、5億2,935万円の純利益となっています。前年度に



比べて1億7,387万円、24.7%純利益が減少しています。

水系別の経営収支は、北伊勢工業用水道事業、松阪工業用水道事業及び中伊勢工業用水道事業がそれぞれ黒字、多度・鈴鹿工業用水道事業が赤字となっています。

(総収益と総費用の推移のグラフ、主な経営成績の一覧表は13頁に掲載)

### 3 三重県電気事業

#### (1) 事業の概況

平成26年度の供給電力量は、水力発電事業が、69,194,736kWhで前年度の185,521,709kWhから116,326,973kWh減少し、前年度比37.3%となっています。RDF焼却・発電事業は、50,300,470kWhで前年度の53,534,549kWhから3,234,079kWh減少し、前年度比94.0%となっています。

建設改良費は1億4,471万円で、前年度に比べて2億3,207万円、61.6%減少しています。

#### (2) 経営収支の状況

平成26年度の電気事業全体の経営収支は、総収益が33億5,901万円、総費用が35億7,237万円で、2億1,335万円の純損失となり、前年度に比べて4億4,642万円収支が悪化しています。

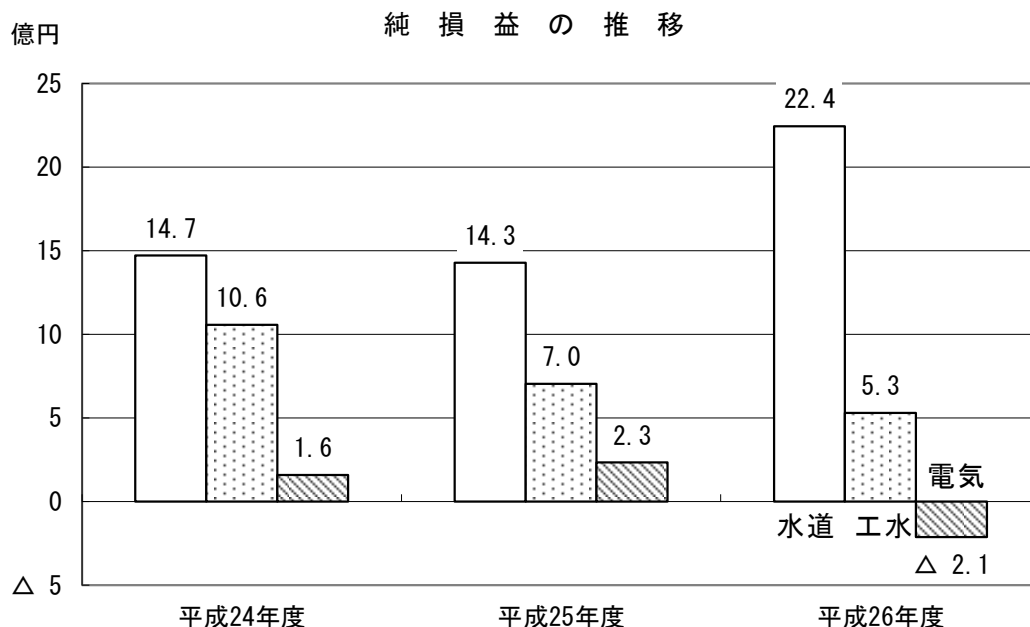
事業別の経営収支は、水力発電事業が6億9,861万円の赤字、RDF焼却・発電事業が4億8,525万円の黒字となっています。

(総収益と総費用の推移のグラフ、主な経営成績の一覧表は14頁に掲載)

<資料>

1 平成26年度企業庁決算の概要

(1) 経営収支の状況



【経営収支の状況】

(単位：百万円)

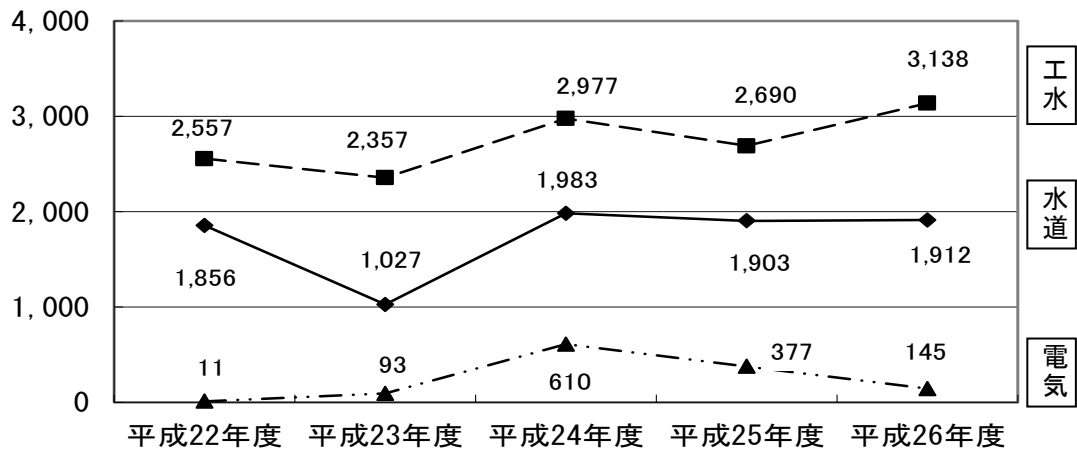
事業名			総収益 (A)	総費用 (B)	当年度純損益 (A) - (B)
水道事業			10,905	8,660	2,245
内訳	北中勢水道	北勢系			
		木曾川用水系	1,268	1,200	69
		三重用水系	2,396	1,505	890
	長良川水系	851	720	131	
	中勢系	2,970	2,585	385	
	南勢志摩水道	3,420	2,651	769	
工業用水道事業			13,413	12,883	529
内訳	北伊勢工業用水道		5,185	4,684	500
	松阪工業用水道		233	163	70
	中伊勢工業用水道		228	226	3
	多度・鈴鹿工業用水道		7,766	7,810	△ 44
電気事業			3,359	3,572	△ 213
内訳	水力発電		1,752	2,450	△ 699
	R D F 焼却・発電		1,607	1,122	485
合計			27,677	25,116	2,561

(注) 1 本表の金額は消費税及び地方消費税額を含まない。

2 四捨五入のため合計等が合わない場合がある。

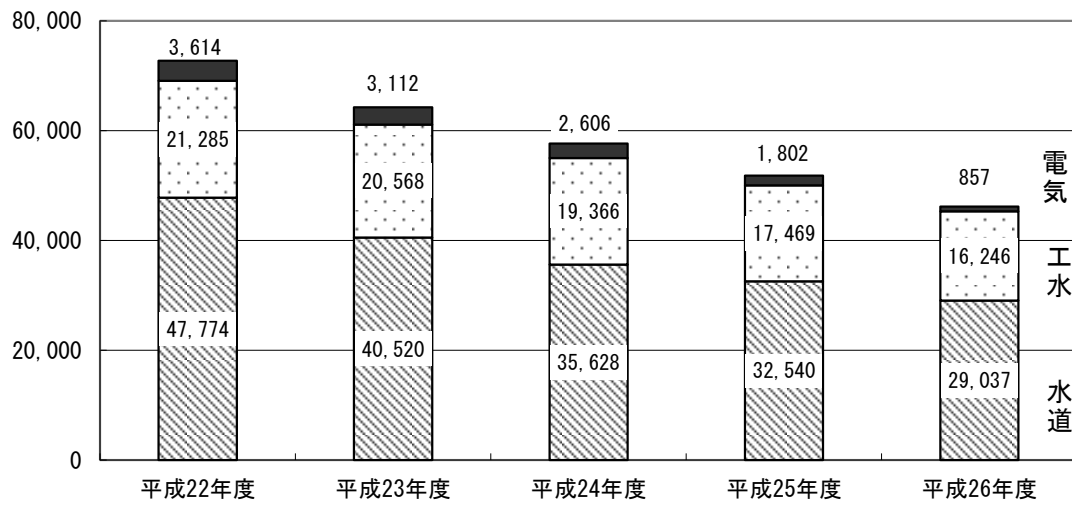
(2) 建設改良費の推移

百万円

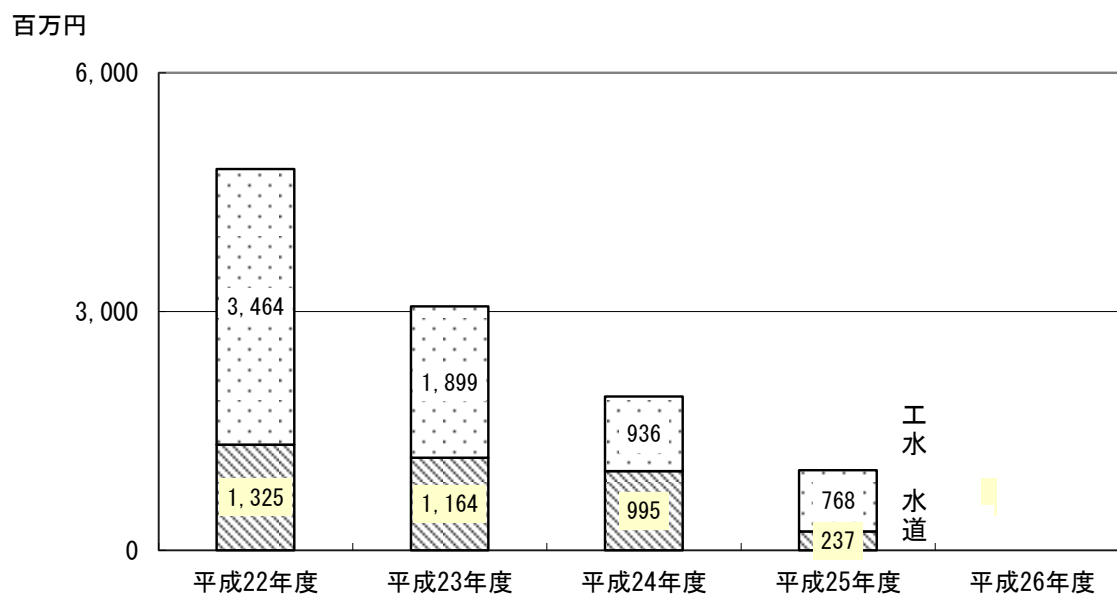


(3) 企業債残高の推移

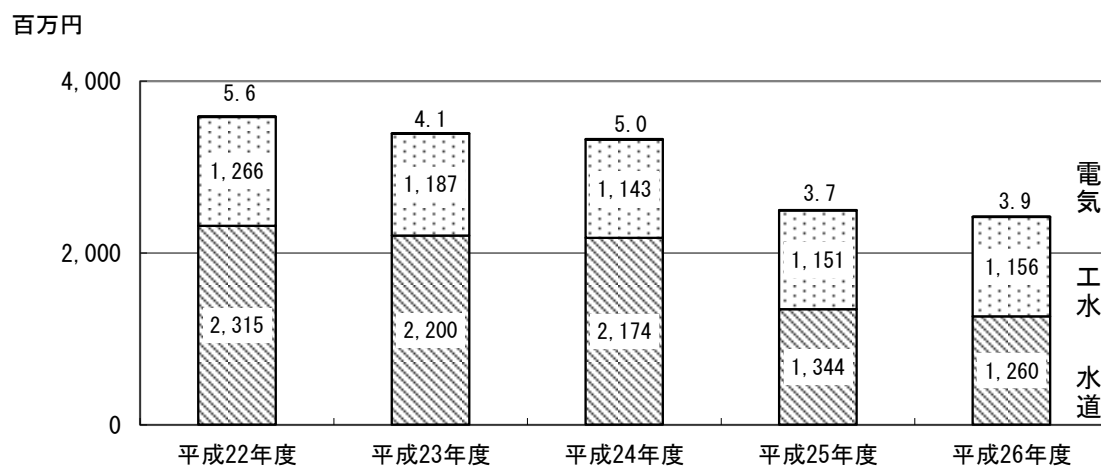
百万円



#### (4) 水資源機構割賦負担金残高の推移

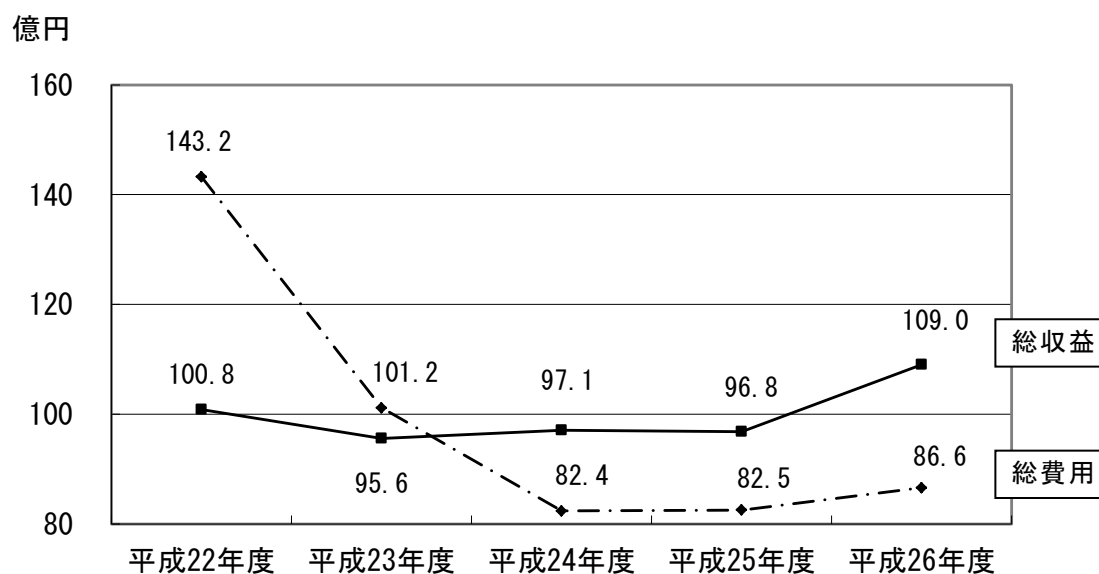


#### (5) 一般会計繰入金の推移



## 2 三重県水道事業

### (1) 総収益と総費用の推移



### (2) 主な経営成績

区分	平成26年度 (A)	平成25年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	(参考) 平成25年度 全国平均
給水能力 (m <sup>3</sup> /日)	427,666	427,666	0	477,566
年間総給水量 (千m <sup>3</sup> )	72,890	76,455	△ 3,566	111,178
1日平均給水量 (m <sup>3</sup> /日)	199,697	210,042	△ 10,345	303,357
1日最大給水量 (m <sup>3</sup> /日)	238,199	265,478	△ 27,279	349,203
経常収益計 (千円)	10,337,311	9,682,901	654,411	9,818,295
うち給水収益 (千円)	9,307,735	9,446,800	△ 139,066	9,589,271
経常費用計 (千円)	8,602,342	8,254,192	348,149	8,424,645
うち受託工事費(千円)	114,691	98,996	15,694	19,364
経常収支比率 (%)	120.2	117.3	2.9	116.5
供給単価 (円/m <sup>3</sup> )	127.7	123.6	4.1	86.6
給水原価 (円/m <sup>3</sup> )	105.4	106.7	△ 1.3	75.9

(注) 1 経常収益＝営業収益＋営業外収益

2 経常費用＝営業費用＋営業外費用

3 供給単価＝給水収益／年間総給水量

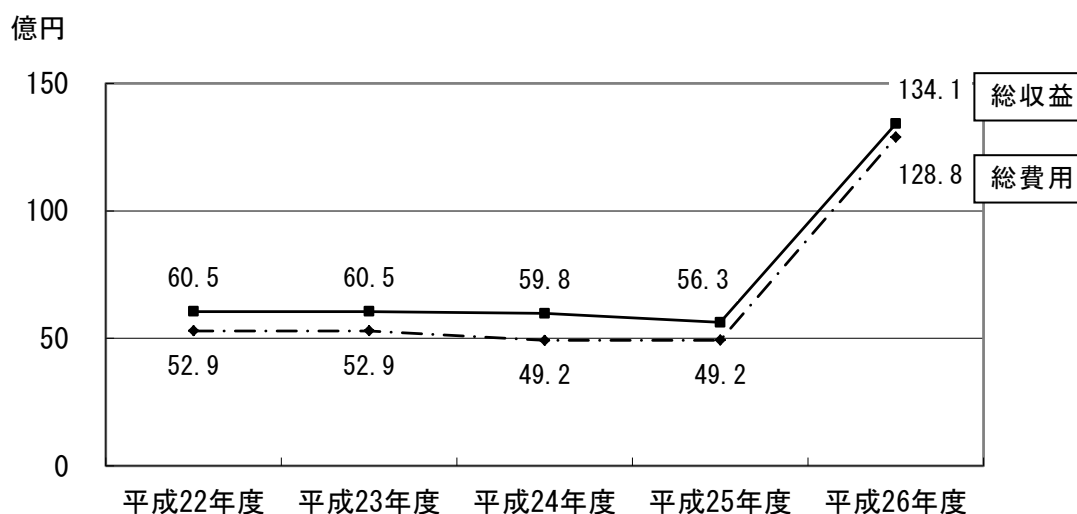
4 給水原価＝(経常費用－受託工事費－長期前受金戻入)／年間総給水量

5 平成25年度全国平均は、「平成25年度地方公営企業年鑑(総務省自治財政局編)」の都道府県営用水供給事業の平均値

6 四捨五入のため、比較増減値等が合わない場合がある。

### 3 三重県工業用水道事業

#### (1) 総収益と総費用の推移



#### (2) 主な経営成績

区分	平成26年度 (A)	平成25年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	(参考) 平成25年度 全国平均
給水能力 (m <sup>3</sup> /日)	911,500	911,500	0	400,116
契約水量 (m <sup>3</sup> /日)	781,130	791,170	△ 10,040	316,779
年間総有収水量 (千m <sup>3</sup> )	205,289	211,839	△ 6,550	112,848
1日平均給水量 (m <sup>3</sup> /日)	435,513	450,935	△ 15,422	226,683
経常収益計 (千円)	12,062,922	5,626,263	6,436,659	2,394,037
うち給水収益 (千円)	5,050,123	5,154,758	△ 104,635	2,127,090
経常費用計 (千円)	5,246,342	4,923,025	323,317	2,002,523
うち受託工事費 (千円)	0	934	△ 934	6,619
経常収支比率 (%)	229.9	114.3	115.6	119.6
供給単価 (円/m <sup>3</sup> )	24.6	24.3	0.3	18.8
給水原価 (円/m <sup>3</sup> )	23.3	23.2	0.1	17.7

(注) 1 経常収益＝営業収益＋営業外収益

2 経常費用＝営業費用＋営業外費用

3 供給単価＝給水収益／年間総有収水量

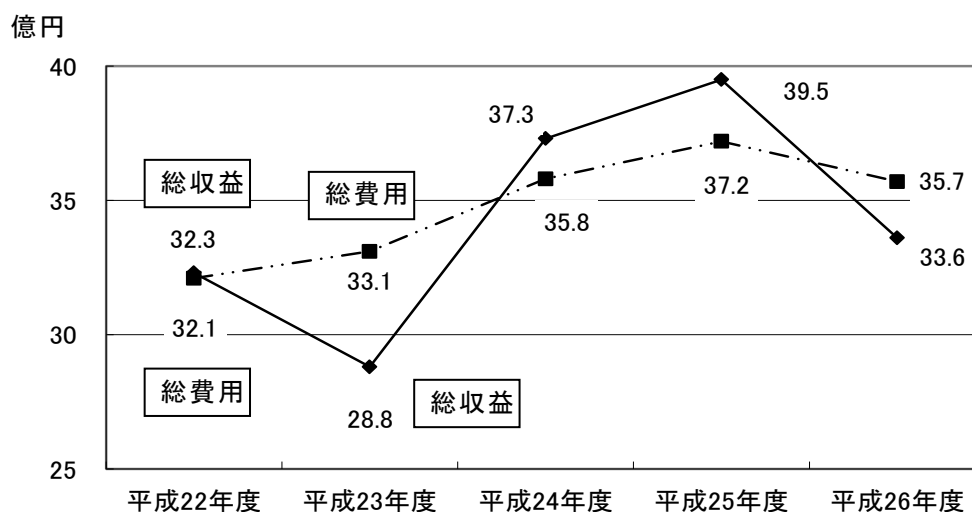
4 給水原価＝(経常費用－受託工事費－長期前受金戻入)／年間総有収水量

5 平成25年度全国平均は「平成25年度地方公営企業年鑑(総務省自治財政局編)」の都道府県営工業用水道事業の平均値

6 四捨五入のため、比較増減値等が合わない場合がある。

## 4 三重県電気事業

### (1) 総収益と総費用の推移



### (2) 主な経営成績

項 目		平成26年度 (A)	平成25年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	(参考) 平成25年度 全国平均
電 気 計	経常収益 (千円)	3,163,859	3,953,141	△ 789,282	2,871,135
	うち電力料収入 (千円)	2,405,500	3,545,389	△ 1,139,889	2,673,789
	経常費用 (千円)	2,672,598	3,720,076	△ 1,047,478	2,400,242
	経常収支比率 (%)	118.4	106.3	12.1	119.6
	平均売電単価 (円/kWh)	20.1	14.8	5.3	9.1
水 力	経常収益 (千円)	1,751,798	2,597,779	△ 845,981	—
	うち電力料収入 (千円)	1,418,177	2,587,041	△ 1,168,864	—
	経常費用 (千円)	1,614,764	2,507,493	△ 892,729	—
	経常収支比率 (%)	108.5	103.6	4.9	—
	平均売電単価 (円/kWh)	20.5	13.9	6.6	—
R D F	経常収益 (千円)	1,412,061	1,355,362	56,699	—
	うち電力料収入 (千円)	987,323	958,348	28,975	—
	うちRDF処理委託料収入 (千円)	383,067	316,932	66,135	—
	経常費用 (千円)	1,057,834	1,212,583	△ 154,749	—
	経常収支比率 (%)	133.5	111.8	21.7	—
	平均売電単価 (円/kWh)	19.6	17.9	1.7	—

- (注) 1 経常収益＝営業収益 (RDFは附帯事業収益) + 営業外収益  
 2 経常費用＝営業費用 (RDFは附帯事業費用) + 営業外費用  
 3 平成25年度全国平均は、「平成25年度地方公営企業年鑑 (総務省自治財政局編)」の都道府県営電気事業の平均値  
 4 四捨五入のため、比較増減値等が合わない場合がある。